

COVID-19 流行前後における当院嗅覚外来の変化と COVID-19 による嗅覚障害の特徴

◎米澤 和¹⁾、森 恵莉²⁾

東京慈恵会医科大学附属病院 耳鼻咽喉・頭頸部外科¹⁾、東京慈恵会医科大学 耳鼻咽喉科学教室²⁾

【はじめに】COVID-19 の流行により嗅覚障害に対する関心が高まったが、上気道炎罹患後の感冒後嗅覚障害はこれまでも耳鼻咽喉科外来においてはよくある疾患であった。諸外国では、COVID-19 に伴う嗅覚障害は臨床像が他のウイルスと大きく異なることが言われているが、本邦ではまだ明らかになっていない。また、COVID-19 患者の受け入れなどにより、当院嗅覚専門外来は患者数減少などの影響を受けた。そこで今回我々は COVID-19 流行前後における嗅覚外来受診者と感冒後嗅覚障害患者の特徴の変化を調査し、COVID-19 罹患後の嗅覚障害とそれ以外の嗅覚障害について比較したので報告する。

【対象】2019 年度と 2020 年度の各年度に当院嗅覚専門外来を初診で受診した患者 327 名（男性 148 名、女性 179 名）を対象とした。平均年齢は 53.1 ± 33.7 歳であった。

【方法】自覚症状については、嗅覚・味覚・鼻閉についての Visual Analogue Scale(VAS)、日常のにおいアンケート(SAOQ)を用いて評価を行い、また、嗅覚検査には基準嗅力検査(T&T)、Open Essence(OE)を使用した。

【結果】COVID-19 流行前である 2019 年度と比較し、2020 年度は嗅覚外来の初診件数が 32.0%、T&T 件数が 24.2%減少した。また、2019 年度の感冒後嗅覚障害 48 名と比較し、COVID-19 罹患後嗅覚障害患者の 15 名は、年齢が若く (56.3 ± 26.8 歳, 42.3 ± 34.7 歳; <0.05)、病脳期間が短く (14.5 ± 87.4 ヶ月, 4.0 ± 10.9 ヶ月; <0.05)、T&T における嗅覚障害の程度が軽度 (4.5 ± 3.0 , 3.0 ± 3.3 ; <0.05) であった。

【考察】COVID-19 流行に伴い、嗅覚専門外来受診患者数は一時的に減少となった。当院の状況や役割のため、そして患者の受診控えの結果であると考えた。また COVID-19 罹患後嗅覚障害は、COVID-19 以外の上気道炎による嗅覚障害とは異なる臨床像であることが明らかとなった。COVID-19 罹患後嗅覚障害の病態は徐々に明らかになってきているが、今後、当院においても長期に経過を追っていききたい。

連絡先: 03-3433-1111 (内線 3607)